

2017年12月期 第2四半期決算説明会 質疑応答概要

■ 第2四半期の業績について

Q1. 2Qは工作機械、産業機械事業共に高い利益率を確保しています。要因について教えてください。

A1. 工作機械事業については、第2四半期は放電加工機の販売台数が大きく伸長し、売上高が損益分岐点を大きく上回った結果、利益率が大幅に改善しています。産業機械事業は、豎型射出成形機やシリコン成形機など利益率の高い機種の販売が好調だったこと、また原価低減活動の取り組みなどもあり、高い利益率を達成いたしました。

＜参考＞ 2Qセグメント別営業利益率（四半期ベース）

工作機械事業 17.3%、 産業機械事業 12.3%

※セグメント別業績推移（四半期ベース）の詳細につきましては、補足説明資料をご参照下さい。

https://www.sodick.co.jp/ir/pdf/02/171121_meeting_add.pdf

Q2. 金属3Dプリンタの販売状況について教えてください。

A2. 金属3Dプリンタにつきましては、期初50数台の販売を計画していましたが、2Q時点では進捗が遅れています。主な要因としては、金属3Dプリンタは輸出規制の対象のため、中国、アジアへの輸出手続きが煩雑であり、相応の時間を有することもあり受注が低迷しています。今後は、大学・研究機関へ積極的に貸与することにより、マーケットでの認知度を高め拡販を進めてまいります。また、現在金型をターゲットとした販売活動を行っておりますが、より市場の大きな部品加工の分野への参入を進めていきたいと考えております。特に、需要の大きな航空機分野では、チタン、インコネルなどの材料が求められており、それらに対応できるよう製品ラインナップの拡充、加工性能・加工速度の向上、金属粉末のバリエーションの拡充など、研究開発を強化していく方針です。

■ 放電加工機の受注状況、生産体制について

Q 3. 放電加工機の受注台数が1 Qに比べて2 Qが減速している要因について教えてください。

A 3. 1 Qは、中国でのものづくりの高度化や自動化ニーズの高まり、中国政府の補助金の影響もあり、自動車、スマートフォン関連を中心に受注台数が大きく増加しました。2 Qにかけては、納品までのリードタイムが長期化していること、放電加工機の主要部品の一部が供給不足になった影響などもあり、受注台数は1 Qに比べて減速していますが、従来に比べて依然として高い水準の受注が継続しています。また、中国は例年春節明けに受注が増え、秋から年末にかけて受注が減る傾向があり、その影響も一部あるのではないかと考えます。

Q 4. 中国の市場環境の見通しについて教えてください。

A 4. 足元では、お客様からの引き合いも多く、好調な需要が継続しています。中国政府が推進しているものづくりの高度化、自動化ニーズは引続き増加することが見込まれており、来期も好調な受注が継続していくのではないかと考えています。

Q 5. 受注増加に伴い、生産能力の拡大はどのように進めていく計画ですか？

A 5. 現在、受注増加に対応するため、日本、タイ、中国での生産能力拡大を進めています。また、タイの第2工場に新たな生産ラインの増設を計画しているほか、加賀事業所には放電加工機だけでなく、射出成形機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタなど多種多様な製品の生産可能なマルチファクトリーの建設を予定しており、生産能力拡大に向けて生産体制を整えていく方針です。

■ 通期業績予想について

Q 6. 3 Q（10-12月）は売上、利益ともに2 Qに比べ減少する見通しとなっています。

要因について教えてください。

A 6. 3 Q（10-12月）は、放電加工機の一部の主要部品が供給不足になっていること、納期の長期化などの影響もあり、2 Qにかけて減速した結果、3 Qの売上高、利益ともに2 Qに比べ低下する見通しです。

Q 7. 設備投資、減価償却費、研究開発費の見通しについて教えてください。

A 7. 設備投資につきましては、横浜本社の新研究開発棟、加賀事業所の物流センター・マルチファクトリー、タイ 第2工場の増産設備、北米販社の新社屋などもあり、当初計画の約34億円を少し上回る見通しです。これらの設備投資に係る減価償却費は来期以降に影響してくることから、減価償却費につきましては、当初計画の21億円程度を見込んでおります。研究開発費につきましても、概ね当初計画の約30億円程度となる見通しです。